

特定非営利活動法人 女性技術士の会 設立趣旨書

我が国は、狭い国土と決して潤沢ではない資源にもかかわらず、めざましい産業発展と経済成長を遂げてきており、特に 20 世紀半ば以降は幾多の公害問題を解決し、国際的にもその技術力は高く評価され続けてきました。これは、先人たちの努力の賜であり、その技術力は、将来へ継承されるべきものです。

しかしながら、社会は、高齢化による働き手の減少、経済成長の鈍化等により、行政の技術政策は無駄を無くし、効率化、総合化を追求したものへと変化しているために、地域に展開される事業は単独技術の政策事業から各種技術を組み合わせた総合政策事業へと大きく変わってきています。しかも、その内容は、地域の風土や生活に沿った総合的な事業立案と具体的、実地的な推進力、そして評価が求められることから、技術者はこれらに対応する能力が必要であり、一般市民は事業を適正に評価すべき眼を養う必要があると考えます。

そのような社会の中で現在、学生の理科系離れや科学技術への関心の低下は大きな課題となっています。

一方、男女の雇用機会均等や仕事と子育ての両立支援のための取り組みが行われてきましたが、いまだ、第一子出産を機に仕事をやめる女性が 7 割を占める現実があります。また、介護をしながら責任ある立場で仕事をこなしている女性も数多くいます。このような現状の中で、今、全ての人を対象とした「仕事と生活の調和」を可能とする働き方の見直しが問われています。

そのような世相に鑑み、「女性技術士の会」は、科学技術のあり方はもとより、女性の職能と生活の課題を巡って女性の視点で意見交換をするため、技術分野の横断的な連絡組織として平成 5 年 10 月に発足しました。会員は、建設、環境、情報工学、化学、上下水道、応用理学、衛生工学、生物工学、資源工学、農業、電気電子、繊維、総合技術監理等技術士法に基づく 14 の技術分野の専門家集団から成り、社会貢献・国際貢献の基本理念のもと、技術レベルの向上を目指して相互研鑽に努め、情報交換を行うとともに、国際女性技術者・科学者ネットワーク（INWES）の日本事務局、小・中学生、高校生及び大学生を対象とした科学技術に関するイベントの主催・参画等、発足以来今日に至るまで、国の内外において仕事と家庭を両立しながら、業務を超えた多岐に渡る活動を続けてきました。

我が国は、現在直面している少子高齢化に起因する社会問題、エネルギー問題、温暖化問題をはじめとする様々な環境問題等、地域的な、また地球的な様々な問題を解決し、引き続き高い技術力に裏打ちされた社会基盤を維持する必要があります。

このための一助である、次代を担う小中学生の理科離れを食い止めること、男女共同参画社会の担い手となる女子生徒のキャリア意識を高めること、科学技術に携わる女性が子育てや介護をしながらも就業可能な環境を創出すること、これらの問題を国際社会で共有し解決に向けた行動を起こすことは重要と考えます。

そしてこれらの事項は、私たちがこれまで実施してきた科学技術分野における啓発活動の延長上に位置するものです。

私たちは、幅広い技術分野に対応できる技術者集団という会の特徴、生活者としての経験と知識を活かし、広く一般市民を対象として科学技術発展のための普及啓発事業を行うことにより、

市民生活の中に科学技術を浸透させ、子供たちが科学技術に親しむ機会をより多く作ることに寄与し、女性技術者の育成や女性が技術者・科学者として社会に進出するための支援となる女性の職域に関する普及啓発事業を行うことにより、科学技術をとおして男女共同参画社会の構築に寄与するものと考えます。また、海外の技術者との交流をとおして科学技術や技術者の育成等に共通する諸問題の調査、研究を行うことは、国際貢献に資するものと考えます。さらに、まちづくりに関する各種事業への参画・支援を行うことにより、「仕事と生活の調和」を意識し、子育てや介護、自身の生活とのバランスのとれたライフスタイルに基づく新たなまちづくりを目指すことが可能になると考えます。これら一連の諸事業は、科学技術の振興と発展に根ざした豊かな社会環境の実現に大きく貢献できるものと考えます。

このような活動の多くは、地方自治体等が市民参画を促しています。私たちが計画する様々な活動を今以上に円滑に展開するためには、社会から信頼のある組織、資金的に活動しやすい組織の構築が必須であり、特定非営利活動促進法に基づく法人格を取得することとしました。

この法人は、広く一般市民を対象として、科学技術発展のための普及啓発事業を行い市民生活の中に科学技術を浸透させ、子供たちが科学技術に親しむ機会を増やす、女性技術者・科学者の育成や、女性が技術者・科学者として社会に進出するための支援を行い、科学技術をとおして男女共同参画社会を構築する、海外の女性技術者・科学者との交流をとおして働く女性に共通する諸問題の調査、研究を行う、さらに、子育てや介護、自身の生活とのバランスのとれたライフスタイルに基づく新たなまちづくりを目指すことにより、科学技術の振興と発展に根ざした豊かな社会環境の整備の実現に貢献することを目的といたします。

平成 19 年 5 月 18 日

理事長 氷上 澄子
副理事長 酒井 一江
事務局長 岩熊 眞起
理 事 石田 佳子
理 事 角田ふで子